

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
三次市地域公共交通会議	備北交通株式会社	三次町循環 南畑敷町循環	運行事業者と協議のもと、観光利用者の増加を図るため、休日ダイヤの一部経路変更を行った。また、交通観光センター等でチラシの配布を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1循環あたりの利用者を5.4人以上としていたが、実績は5.5人であった。	運行の周知及び利用啓発を図るため、広報活動を積極的に実施する。	【評価できる点】 ・新たな利用促進（バス&レールどちらも割きっぷオプション券）を取り入れた点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	備北交通株式会社	赤名線	運行事業者と協議のもと、高速バスとの乗り継ぎを考慮したダイヤ改正を行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの利用者を3.6人以上としていたが、実績は4.1人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討する。	
	備北交通株式会社	下高野線	通学利用者の利便性向上のため、平日ダイヤの一部経路変更を検討した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.7人以上としていたが、実績は5.5人であった。	関係自治体や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。	
	備北交通株式会社	作木線①	乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.3人以上としていたが、実績は4.8人であった。	関係自治体や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。	
	備北交通株式会社	作木線②③	乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1便あたりの利用者を3.4人以上としていたが、実績は3.6人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善等を検討する。	
	有限会社君田交通	川の駅三次線	トンネル開通に伴う経路変更により、所要時間を短縮した。また、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を1.6人以上としていたが、実績は1.3人であった。	地域や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編・ダイヤ改善等を検討する。	
	NPO法人元気むらさきぎ	作木町上地区 作木町中地区 作木町下地区	運行主体と連携し、町内の広報誌等を用いてPRを行った。また、IT技術を用いた運行管理システム及び予約アプリの活用に係る実証実験事業を継続して行った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	1月あたりの利用者を47人以上としていたが、実績は51人であった。	地域や運行事業者と協議を行い、利便性向上に資する再編等を検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
廿日市市公共交通協議会	佐伯交通有限会社	玖島・友和線	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の利用状況を検証した結果、頻繁に利用する人の割合が高く、特定の方が利用しなくなったことによる利用者減少や、新型コロナウイルス感染症の影響により、通院・買い物、娯楽のための外出を控える傾向も続いていることから、目標値を過去3年間の平均値の維持に設定した。 ・はつかいち桜まつりや住民代表等が参加する会議に参加し、デマンドバスの使い方説明やPRを行い、利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標：年間延べ利用者数) 1,264人 (目標1,700人 達成率74.3%) ※目標未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・玖島・友和線、所山線ともに新型コロナウイルスの影響もあり、利用者数が減少し目標未達成となったが、引き続き、効果的な利用促進の方法や運用の見直しを検討する。 ・住民代表が参加する会議や、イベントへの参加によりデマンドバスのPR機会を増やすことで、利用者の増加を目指す。 【評価できる点】 ・利用促進を図るのみならず、利用者の声を聞き取り運行内容に反映させた点は評価できる。	【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		所山線	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討した。 ・はつかいち桜まつりで、PRを行い、利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	(目標：年間延べ利用者数) 112人 (目標369人 達成率30.3%) ※目標未達成		
		玖島～玖島分れ～友和学校ロータリー（申請番号3）	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討した。 ・はつかいち桜まつりで、PRを行い、利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標：収益率) 10.9% (目標10% 達成率109.0%) ※目標達成		
		玖島～友和学校～佐伯中学校前～さいき文化センター～津田（申請番号4）	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討した。 ・はつかいち桜まつりで、PRを行い、利用促進を図った。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標：収益率) 9.7% (目標15% 達成率64.6%) ※目標未達成		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
廿日市市公共交通協議会	有限会社津田交通	浅原線	・最近の利用状況を検証した結果、頻繁に利用する人の割合が高く、特定の方が利用しなくなったことによる利用者減少や、新型コロナウイルス感染症の影響により、通院・買い物、娯楽のための外出を控える傾向も続いていることから、目標値を過去3年間の平均値の維持に設定した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標：年間延べ利用者数) 1,389人 (目標1,349人 達成率102.9%) ※目標達成	<ul style="list-style-type: none"> 一定の稼働率を維持しているものの、利用者数は全体的に減少傾向にあるため、効果的な利用促進の方法や運用の見直しについて検討する。 住民代表が参加する会議や、イベントへの参加によりデマンドバスのPR機会を増やすことで、利用者の増加を目指す。 利用実態等をふまえ、対象区域を「飯山」から「栗栖」に変更し、利便性の向上を図る。
		飯山・中道線	・はつかいち桜まつりや住民代表等が参加する会議に参加し、デマンドバスの使い方説明やPRを行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	(目標：年間延べ利用者数) 180人 (目標365人 達成率49.3%) ※目標未達成	
		津田～吉和間自主運行バス	・最近の利用状況や意見・要望を検証し、ダイヤ改正の検討や地域間幹線である広電バス津田線の利用促進を図ることで、本系統の利用者増に繋がる取組を検討。 ・はつかいち桜まつりで、PRを行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	(目標：収益率) 4.4% (目標15% 達成率29.3%) ※目標未達成	
	NPO法人ほっと吉和	吉和線	・支所等と連携することで、高齢者の介護予防事業や学校行事等の活用が増加している。 ・運行事業者と、利用促進策と運行内容について検討した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標：年間延べ利用者数) 1,519人 (目標1,056人 達成率143.8%) ※目標達成	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
府中市地域公共交通活性化協議会	株式会社中国バス	(右まわり便) 府中市役所～ 道の駅びんご府中～ 府中市民病院～ 府中市役所	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅を交通結節点とした他路線への接続もスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。 日頃公共交通を利用する機会の少ない幼稚園児等とその家族に利用促進策として循環バスの飾り付けを行い、無料乗車券の配布を実施した。 商業施設1箇所と連携し循環バスの利用で買い物料金の割引が可能となる特典を、引き続き実施した。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】利用者17,500人/年 【実績】利用者14,527人/年 ・目標値に達しなかった。 ・効果として掲げた、道の駅の交通結節点とした他路線への接続はスムーズに行われ、利用者の利便性向上が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 【右まわり便】 ・次年度目標 利用者16,000人/年 【左まわり便】 ・次年度目標 利用者10,000人/年 【共通事項】 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、利用者数は減少していたが、昨年度よりも増加し、感染拡大前の数値に戻りつつある。 ・郊外路線との接続ダイヤを調整し、利便性向上に努める。 ・右まわり便に令和6年導入予定のEVバスにより新規乗客の獲得を目指す。 ・今後も、高齢者以外にも利用を促進するためにモビリティマネジメントの実施を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 【評価できる点】 ・子育て世代への公共交通利用の働きかけ、相互乗車割引を取り組んだ点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	株式会社中国バス	(左まわり便) 府中市役所～ 見晴団地～ 府中高校～ 道の駅びんご府中～ 府中市役所	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月から路線バスの路線再編を実施し、循環バスとの接続を考慮したダイヤ設定を行うとともに、循環バスと再編路線バスとの相互乗継割引も同時に開始した。 令和5年9月から路線バスを対象としたバスの乗り方教室の募集を開始した。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】利用者11,500人/年 【実績】利用者9,218人/年 ・目標値に達しなかった。 ・通院・買物・公共施設等を利用する高齢者を中心とした日常の移動手段確保につながっている。 		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考		
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果			
安芸高田市公共交通協議会	株式会社 高宮中央タクシー	高宮甲田区域	<p>・市役所窓口や高齢者運転免許自主返納支援制度担当課である危機管理課と連携し、利用方法の説明及び登録受付を行い、利用者増を図った。また、運転免許を自主返納する高齢者への支援制度として、乗車回数券の配布を行い、利用促進を図った。</p> <p>・商業施設と連携し、引続き乗車補助券を配布する取組を行った。</p> <p>また、新規に医療機関との連携に向け、現在協議中である。</p> <p>・路線バスに関する問い合わせに対し、路線バス運行情報の提供とともに、デマンド交通（お太助ワゴン）の利用方法を情報提供し、新規登録者の利用促進を図った。</p>	A	<p>・計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・安芸高田市高齢者運転免許自主返納支援制度利用者(R4年度84名)のうち71.4%が支援内容として、お太助ワゴン回数券を選択しており（ワゴンのみ58.3%・入浴券との混合13.1%）自家用車の代替移動手段として、重要な機能を果たしている。</p>	B	<p>・利用登録者数はR4.10.1時点から154人（R5.9.30時点）増加した。</p> <p>・1日平均利用数は目標の113.4人に対し、105.7人（R4.10～R5.9）と目標を7.7人下回った。</p> <p>・稼働率（実運行回数/計画運行回数）は、目標90%に対し、91.9%であり、目標を1.9%上回った。</p> <p>・利用者アンケート「総合満足度」目標96%に対し、「満足・ほぼ満足・普通」との回答が96.3%で、目標を達成した。</p>	<p>・今後も利用実態の把握、およびアンケート調査を実施し、地域の実情に適した交通体系を構築する。</p> <p>・高齢者運転免許自主返納支援制度担当課である危機管理課や市民課と連携し、免許返納後の利用促進を図るとともに、商業施設等と連携した乗車補助券配布の取り組みを継続実施する。</p> <p>・慢性的な運転手不足の中、タクシー等の活用も含めた各地域に最適な交通モードを検討し、利便性の高いやさしいまちづくりを目指す。</p> <p>・運行範囲の重複を無くすなどの運営の効率化を図り、持続可能な交通ネットワークの整備を検討する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・75才以上の免許返納者に対する共通回数券の助成、市内部での横断的な取組、商業施設との連携を継続している点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】</p> <p>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</p>	
	織田産業株式会社（芸北タクシー） 沖田正	美土里区域 吉田八千代区域								
	有限会社 吉田タクシー	吉田八千代区域								
	有限会社 甲立タクシー（三ツ矢タクシー） 岩本 薫	甲田向原区域								

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
三原市地域公共交通活性化協議会	双葉運輸株式会社 株式会社エフ・ジー おかの交通株式会社	①船木路線 ②北方路線 ③南方路線	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。 ・町内会長連合会、交通事業者と意見交換の場を設定し、利用者ニーズの把握に努めた。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況 収支率は目標10.6%以上に対し11.9%、利用者数は目標32.0人以上/日に対し、37.3人/日といずれも目標を上回った。 ・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移動手段が確保された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き目標が達成できるよう、運営主体の本郷町町内会長連合会、運行を担う交通事業者、市が協働で利用PRなどの普及・利用促進に継続して取り組む。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営主体の町内会、交通事業者、市が協働してニーズ把握に努め、継続的に利用促進を講じている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	有限会社久井交通 ハイランド交通	久井路線	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスとコミュニティ交通の概要を掲載した時刻表を作成し、新聞折込により各戸へ配付し、利用促進に取り組んだ。 ・自治区連合会、交通事業者、福祉団体、民生委員等との意見交換の場を設定し、新規利用者獲得のため関係者が連携し周知を行うことの重要性や利用促進のためのPR手法について確認を進めた。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況 収支率は目標10.0%以上に対し6.9%、利用者数は目標20.0人以上/日に対し、11.9人/日といずれも目標を下回った。 ・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移動手段が確保された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の外出ニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の久井町自治区連合会、運行を担う交通事業者、市が協働で要因を分析し、効果的に利用PRなどの普及・利用促進を継続して行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取り組む。 	
	有限会社久井交通	八幡路線	<ul style="list-style-type: none"> ・利用に関するリーフレットを利用希望者に配布するなど利用促進に努めた。 	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成状況 収支率は目標10.0%以上に対し8.8%、利用者数は目標10.0人以上/日に対し、8.7人/日といずれも目標を下回った。 ・効果達成状況 区域運行により、特に高齢者の移動負担の軽減が図られ、日常の移動手段が確保された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後の外出ニーズの把握に努め、利用者の増加につなげられるよう、運営主体の八幡町内会、運行を担う交通事業者、市が協働で要因を分析し、効果的に利用PRなどの普及・利用促進を継続して行うとともに、必要に応じて運行内容の見直しを図るなど、目標達成に向けて取り組む。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
江田島市公共交通協議会	(株)江田島タクシー	江田島北部線（江田島町） 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、出前講座を実施しながら、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統全体の収支率は16.2%となり、目標値（15%）を達成した。 ・稼働率について、目標である上下便のいずれかの稼働率50%（朝夕便は25%）に達しない便が4便あった。 ・江田島北部線 第1便 （上り）49.3%（下り）0.7% 第3便 （上り）9.7%（下り）14.6% 第5便 （上り）29.2%（下り）26.4% ・江田島北部朝夕便 第3便 （上り）12.9%（下り）38.1% ・沖美北部線・沖美南部線においては、全便が目標を達成している。 <p>【効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の通院や買物など、特に高齢者の日常生活に必要な移動手段が確保された。 ・棧橋で広島行き航路と接続されていることにより、広島市への移動手段確保及び外出機会の創出につながった。 	<p>【目標に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江田島北部線（朝夕便）について、令和4年12月1日からのダイヤ改正による運行時間の短縮に伴い、運行費が減少するため、現状の利用者数を維持できれば、系統全体の収支率の目標値は達成できる見込みである。 ・稼働率の目標を達しない便は、5便から4便に減少したが、江田島北部線（朝夕便を含む）の稼働率は低迷が続いている。おれんじ号等に無料で乗車できる「おでかけ無料乗車day」を行い、需要喚起を図るとともに、運行地域での出前講座の実施など、効果的なモビリティ・マネジメントを引き続き実施する。 <p>【統括】</p> <p>おれんじ号を利用したことがない人や利用の仕方が分からない人に、広報誌や出前講座などを活用して、その仕組みや利用方法を分かりやすく説明していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活を支えるため、必要なサービス水準を維持するとともに、引き続き、航路とバスとの接続や移動ニーズに対応したダイヤ編成を行っていく。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ配布や地元自治会への利用呼びかけを行い、地元自治会や事業者を中心に利用促進・維持が図られている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	(株)江田島タクシー	江田島北部線（朝夕便）（江田島町） 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、出前講座を実施しながら、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。 ・令和4年12月1日に路線バスとの接続を向上させるため、ダイヤ改正を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。				
	三高タクシー	沖美北部線（沖美町・能美町） 美能～高田～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、出前講座を実施しながら、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。 ・令和4年12月1日に路線バスとの接続を向上させるため、ダイヤ改正を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。				
	(有)能美タクシー	沖美南部線（沖美町・能美町） 三吉～是長～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載しつつ、出前講座を実施しながら、おれんじ号の利用方法などの周知を行った。 ・令和4年12月1日に路線バスとの接続を向上させるため、ダイヤ改正を行った。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
広島市陸上交通協議会	事業者：(有)やぐちタクシー 運行系統：系統①	フレスタ口田南店前～コープ高陽前・矢口駅～フレスタ口田南店前（8.8km）	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数3.3人という目標に対し、令和5年度の実績は3.5人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	【評価できる点】 ・スーパーの前にバス停を新設し、スーパーと連携を図った点は評価できる。 ・バス待合施設においてマルシェを開催し利用促進を図った点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	事業者：(有)やぐちタクシー 運行系統：系統②	フレスタ口田南店前～コープ高陽前・矢口駅～上矢口上（10.0km）							
	事業者：(有)中野タクシー 運行系統：上平原線	上平原～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路8.9km,復路9.0km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1回当たりの平均利用者数3.8人という目標に対し、令和5年度の実績は4.4人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	
	事業者：(有)中野タクシー 運行系統：山王押手上線	山王桜台～JR安芸中野駅前～安芸市民病院(往路11.3km,復路11.3km)							
	事業者：(株)フォーブル 運行系統：大塚西	下城ハイツ上～大原駅・Aシティ中央～下城ハイツ上（13.6km）	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1便当たりの平均利用者数4.2人という目標に対し、令和5年度の実績は3.7人であり、目標は達成されなかった。 しなしながら、効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段の確保については、計画通り運行することにより達成された。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	
	事業者：(有)カオル交通 運行系統：系統1	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(8.1km)	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1便当たりの平均利用者数4.8人という目標に対し、令和5年度の実績は4.5人であり、目標は達成されなかった。 しかしながら、効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段の確保については、運行を継続することにより達成された。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。	
	事業者：(株)カオル交通 運行系統：系統2	アルゾ前～DCMダイキ・河戸帆待川駅前～アルゾ前(12.0km)							

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
広島市陸上交通協議会	事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統1	セブンイレブン～福田停留所（上）～ユアーズ（9.0km）	地域の移動手段として定着するよう、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1便当たりの平均利用者数2.4人という目標に対し、令和5年度の実績は4.4人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統2	ユアーズ～福田停留所（上）～セブンイレブン（11.5km）						
	事業者：つばめ交通(株) 運行系統：系統3	ユアーズ～福田停留所（上）～ユアーズ（9.4km）						
	事業者：広島交通(株) 運行系統：今吉田フィーダー（56010）	可部駅前～北部医療センター～今吉田公民館（28.6km）	地域住民の生活交通を存続させるため、計画に基づいた適切な運行を行った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	A	1回当たりの平均利用者数4.9人という目標に対し、令和5年度の実績は7.7人であり、目標が達成された。 また、事業の効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段を確保することができた。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者：広島交通(株) 運行系統：今吉田フィーダー（56020）	可部駅前～上大毛寺～今吉田公民館（27.8km）						
	事業者：朝日交通(株) 運行系統：阿戸線（501）	熊野営業所～熊野町役場～初神～新宮～阿戸学校（9.8km）	地域住民の生活交通を存続させるため、計画に基づいた適切な運行を行うとともに、周知活動を行うなど、利用促進を図った。	A	計画に位置付けられたとおり、事業は適切に実施された。	B	1回当たりの平均利用者数6.6人という目標に対し、令和5年度の実績は6.4人であり、目標は達成されなかった。 しなしながら、効果として掲げた、交通不便地域の高齢者等の日常生活に必要な移動手段の確保については、計画通り運行することにより達成された。	引き続き、計画に基づいた適切な運行を継続するとともに、周知活動を行うなど、利用促進に努める。
	事業者：朝日交通(株) 運行系統：阿戸線（502）	阿戸学校～新宮～初神～萩原下～フジ熊野店（7.9km）						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
東広島市地域公共交通会議	中国ジェイアールバス株式会社	市街地循環線の運行（2系統） ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの平均利用者数は12.2人であり、目標の12.9人を達成できなかった。	昨年度（R4）と比較し、1便あたりの平均利用者数は19%程度増加しており、利用が戻りつつある。引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント時等に配布されているトレーディングカードは、観光協会等と連携した非常に画期的な取り組みであると評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	芸陽バス株式会社	市街地循環線の運行（2系統） ①内回り ②外回り	路線沿線の協力店舗と連携して周知活動を行い、利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1便あたりの平均利用者数は12.2人であり、目標の12.9人を達成できなかった。	昨年度（R4）と比較し、1便あたりの平均利用者数は19%程度増加しており、利用が戻りつつある。引き続き、協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図っていく。	
	中国ジェイアールバス株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行（6系統） ①渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線 ②渋・長貫～黒瀬支所線 ③八畝ヶ畑～黒瀬支所線 ④洋国団地～黒瀬支所線 ⑤楯原～黒瀬支所線 ⑥上条～黒瀬支所線	地元運行協議会による利用状況調査を実施して利用者ニーズを把握した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	1日あたりの平均利用者数は20.6人で、目標の23.1人を達成できなかった。	R5年度の利用は、昨年度並みにとどまった。（コロナ禍前と比較し、約16%減）地元運行協議会で行ったアンケート結果を元に運行改善策を検討する等、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。	
庄原市地域公共交通会議	備北交通株式会社 下高野線	1日 平日4往復、土日祝2往復	運行事業者と協議のもと、観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	1便あたりの利用者を5.7人以上としていたが、実績は5.5人であった。	利用者が減少しているものの、住民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的にバスマップの配布や運行事業者の協力により「乗り放題バス」発売による利用促進を図っている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
坂町地域公共交通会議	坂町	坂町循環バス 坂・北新地線 (車両減価償却費等国庫補助金1両)	<p>令和2年2月に、坂町第2次地域公共交通網形成計画を策定しており、その中で設定した目標や施策などを反映し地域内フィーダー系統確保維持計画を定め、事業を推進している。</p> <p>利便性向上を目的として、令和5年1月から6月末までの期間、横浜・北新地線、小屋浦・北新地線で午後の便毎の待合時間短縮を検討するため、ダイヤ改正の試行運行を実施した。期間中、アンケートを行い、その後、ダイヤの見直しを行うとともに、利用者から要望が多かった休日運行検討のため、令和5年7月から12月までの期間で、土曜日運行の試行運行を開始した。</p> <p>試行運行の実施に合わせ、情報提供として、試行運行の事前告知、ダイヤ改正を反映したパンフレットや各路線毎のポケット時刻表などの車内掲示や車内配布、町広報誌やホームページへの掲載に加え、更新したGTFSデータの公開、民間の無料乗換案内サービスであるGoogleマップの修正を行った。</p> <p>耐用年数が迫っている横浜・北新地線の車両については、予算化し、購入に向けて調整を行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き、運転手のワクチン接種、車両の消毒や換気の徹底などに取り組んだ。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B <p>【1便当たり利用者数】 5.9人 未達成 (目標：6.8人)</p> <p>【年間利用者数】 18,264人 未達成 (目標：19,900人)</p> <p>1便当たりの利用者数、年間利用者数、共に未達成となっているが、特に年間の利用者数については、昨年度よりも大幅に増加している。</p>	<p>利便性向上のため、土日祝日の運行について、試行運行データを基に実施に向けた検討を行う。</p> <p>情報提供の改善のため、引き続き地図アプリとの連携について、利用者に最新の情報が提供されるようデータの更新を継続して行う。また、配布物等についてもよりわかりやすいものとなるよう、内容を確認し、修正・改良を継続する。</p> <p>横浜・北新地線の車両更新については、引き続き、購入に向け、調整を行う。</p> <p>今後も、現在の運行を継続しながら、計画的に各事業の実施に向けた調査・取り組みを行い、坂町循環バスの利用促進を図り、将来に渡って存続可能な公共交通となるよう努める。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗換案内表示付きのJR坂駅時刻表の車内配布やGTFSデータを活用したGoogleMapとの連携を積極的に行い利用者への情報提供を継続している点や、利用者意見を細かく分析して要望の多い土曜日運行の試行運行をすみやかに開始して利便性向上を図る取り組みを行っている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
尾道市地域公共交通協議会	岡山交通株式会社	区域運行型 ①菅野・上川辺地区 ②河内・今津野地区 ③綾目・大和地区	広島県が実施する「広島型 M A A S推進事業」を活用し、地域 団体や社会福祉協議会、交通 事業者と協議を重ね、現状分 析や運行内容の改善等を記載 した「M A A S社会実装計画書」を作成した。	A 計画通り事業は適切に実施 された。	A 利用者数は、目標の3人/日を 上回ったものの、1地 区で利用 者の減少が見られ た。原因はヘ ビーユーザー によるものと見受 けられる が、引き続き分析を行 う。	引き続き地域団体や社会福 祉協議会、交通事業者と連 携し、利用促進に努めてい く。また、改善した運行内 容での効果検証を行い、利 便性の向上を図る。	【評価できる点】 ・地域住民から意見のあった運行内容の 要望（病院の予約に間に合わない等）を 改善し、不便さを解消している点は評価 できる。 【期待する取組】 ・利用者数が増加傾向にあるため、関係 者と連携協働を図り、より一層利便性の 高い交通サービスが提供されることを期 待します。	
府中町公共交通協議 会	広島第一交通株式会社	清水ヶ丘・桜ヶ丘地域デマンド型 乗合タクシー「うぐいす号」	令和5年度新規事業のため、 前回事業評価なし。	A 計画通り事業は適切に実 施された。	A 【目標値】 実証運行（R3.8～R4.4）の実績 を踏まえて設定 ①1日あたり利用者数 ・R5年度：8人/日 ②収益率 ・R5年度：8.5% 【実績値】 ①R5 14.3人/日 ②R5 13.7% 利用者数・収益率とも目標値を 大きく上回っての達成となっ た。これは実証運行などにより 地域に適したサービスレベルを 設定できたことによるものと考えられる。	利用者数については目標値 の約1.8倍となり、また、本 格運行への移行から徐々に 利用者数を伸ばしているな ど、地域への定着が図られ ている。それに伴い収益率 も目標値を大きく上回って いる。 今後は、アンケート調査な どにより継続的な利用実態 の把握や課題改善などに取 り組み、運行ルートやダイ ヤの見直しなど、さらなる 利便性向上や利用促進を検 討する。	【評価できる点】 ・実証実験時のデータを元に利用状況を 把握し、利用者ニーズに合わせた交通 サービス内容としている点は評価でき る。 【期待する取組】 ・導入したことに満足することなく、定 期的に利用状況を分析し、商業施設との 連携をはじめとした取組みが実施される ことを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
鳥取市生活交通会議	日本交通（株）	①米里線（上り） ②米里線（下り）	<p>（R4二次評価結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりわけ利用者数が大きく減少した系統についてはコロナの影響以外の要因を分析の上、関係者と連携して議論し、住民に利用してもらえる持続可能な公共交通となるように期待する。 	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>B</p> <p>（目標） 目標102人に対し実績57人であり、目標を下回った。</p> <p>（効果） 令和5年4月より地元の診療所及び学校を経由する路線に変更した。地域住民の広域移動を可能とする交通手段となっている。</p>	<p>今後も、地元及び事業者と協議を重ねて利用促進に努める。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに合わせた経路変更を実施している点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	
	日ノ丸ハイヤー（株）	雨滝・上地線			<p>（反映状況）</p> <p>利用状況を共有し、米里線については令和5年4月～新路線、新ダイヤでの運行を開始した。利用促進に努めるため地域との意見交換会を重ねた。</p>	<p>B</p> <p>（目標） 目標6,275人に対し実績は4,006人であり、目標を下回った。</p> <p>（効果） 区域運行を行うフィーダー系路線として、幹線交通へのアクセスを重視したダイヤを設定しており、通学を中心とした地域住民の交通手段となっている。</p>		<p>今後も引き続きダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
南部町地域公共交通会議	南部町	路線定期 上長田線 大木屋～入蔵・あご牛・赤谷～丸合西伯店	<p>・乗車数の目標数値は、地域の高齢化に伴う人口減少や新型コロナウイルスによる外出自粛の影響を受け、令和3年度の実績に基づき目標設定を行い、目標達成のため取り組んだ。</p>	A	A	<p>令和5年度目標（輸送人員） 上長田定期488 上長田デマンド 1632 東長田定期488 東長田デマンド 744 上長田・東長田デマンド1684 計5036人/年 ↓ 令和5年度実績（輸送人員） 上長田定期1444（前年度1392） 上長田デマンド 1516（前年度1362） 東長田定期1191（前年度1005） 東長田デマンド618（前年度534） 上長田・東長田デマンド 2058（前年度2254） 計6827人/年（前年度6547人）</p>	<p>輸送人員が微増となっているが、現状に満足せず、これからも地域づくり団体等と協働し、利用者への説明等を行うとともに、さらに利便性を高めるための方策の検討を行い、持続可能な公共交通を目指していく。</p>	<p>【評価できる点】 ・全体目標を達成するだけでなく、利用者が増加している点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</p>
		路線不定期 上長田線デマンド 丸合西伯店～入蔵・あご牛・赤谷～大木屋						
		路線定期 東長田線 金山～久蔵・八金・二柵～丸合西伯店						
		路線不定期 東長田線デマンド 丸合西伯店～久蔵・八金・二柵～鎌倉入口						
		路線不定期 上長田東長田デマンド 丸合西伯店～鎌倉入口～大木屋						
		上記5系統、小型車両2台	A	A	<p>運行車両については、運行実施に際して支障がないよう定期的な検査を行い、適切な管理を行った。</p>	<p>計画どおり事業は適切に実施された。</p>	A	<p>小型車両の機動力を活かし、谷部集落までの乗り入れを行った。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
米子市地域公共交通会議	日本交通株式会社	大山線 (伯耆大山駅～美濃・尾高～本宮)	バスの利用促進に関する住民向け説明会を実施し、意見交換を行うとともに、利用促進のためのチラシを配布し、周知を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	C 【目標】 1日当たりの地域住民の利用者比率 (目標) 0.11%以上 (実績) 0.01% 利用者が回復しない原因として、運行本数やダイヤ等と、利用者ニーズとのミスマッチがある。	本年度をもって地域公共交通確保維持事業を完了とする。(鳥取県西部地域公共交通再編実施計画に基づいて本事業を実施していたが、当該計画期間が令和5年9月30日で満了となったため)	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・今年度が国庫補助の最終年度となるが、引き続き運行は行われるため、目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。	
	日本交通株式会社	福万線 (伯耆大山駅～上新印～日下)	バスの利用促進に関する住民向け説明会を実施し、意見交換を行うとともに、利用促進のためのチラシを配布し、周知を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 【目標】 1日当たりの地域住民の利用者比率 (目標) 0.29%以上 (実績) 0.18% 利用者が回復しない原因として、運行本数やダイヤ等と、利用者ニーズとのミスマッチがある。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
三朝町地域公共交通協議会	三朝町	小河内線系統① 三朝町役場内～森公民館・鎌田公民館～実光 (路線不定期)	・町民から要望のあった小河内線のルート変更について、利用者への聞き取り調査を踏まえ、令和5年3月より実施。利用者の生活に寄り添ったバス運行となるよう、利便性の向上に努めた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標) 1,390人/年 (実績) 603人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	・利用者のニーズに合わせたダイヤ改正等の見直しを行い、利便性の向上に努めていく。 ・引き続き、町報やホームページ等を活用して周知を図るほか、周知チラシの刷新や乗り方教室など、利用促進につながる取組みを継続して進めていく。 ・さらに利便性を高めるための方策の検討を行い、持続可能な公共交通を目指していく。 (特記事項) ・次回以降は、実績を基にした目標を設定し、より正確な原因分析を進めていくこととする。	【評価できる点】 ・継続的な利用促進に係る取組みのほか、ダイヤ改正にあわせた周知チラシを刷新した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		小河内線系統② 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線不定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標) 2,460人/年 (実績) 1,135人/年 目標は達成しなかったが、下校する児童等の移動手段を確保維持することができた。		
		小河内線系統③ 三朝町役場内～森・鎌田～実光 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標) 140人/年 (実績) 7人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
		穴鴨線系統① 三朝町役場内～三朝小学校前・若宮集会所前・各(村中)～大谷入口 (路線不定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標) 650人/年 (実績) 969人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
		穴鴨線系統② 穴鴨公会堂前～運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標) 2,220人/年 (実績) 962人/年 目標は達成しなかったが、学生や高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		
		穴鴨線系統③ 下畑～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標) 140人/年 (実績) 172人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
三朝町地域公共交通協議会	日ノ丸自動車	穴鴨線系統④ 下畑～穴鴨公会堂前・運動場前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標) 300人/年 (実績) 1,072人/年 目標を達成した。高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	
		穴鴨線系統⑤ 木地山～上西谷上・三朝小学校前～三朝町役場前 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	(目標) 400人/年 (実績) 6,505人/年 目標を達成した。通学する児童等の移動手段を確保維持することができた。	
	三朝町	徳本線 三朝町役場内～吉水医院前～三朝温泉病院 (路線定期)		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	(目標) 1,000人/年 (実績) 361人/年 目標は達成しなかったが、高齢者等の移動手段を確保維持することができた。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
江津市地域公共交通会議	江津市	松川波積線 川平駅～久坪～上津井～波積診療所 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	利用者数を1運行当たり6.4人以上に対して、3.0人であった。 ※稼働率15.66%	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。
	江津市	有福千田線 有福本明～堂庭～千田～跡市バス停 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認し地元協議も行った上で、令和5年4月から運行日を変更した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、2.2人であった。 ※稼働率17.35%	新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。	
	江津市	川平線 後谷～奥谷～川平駅口 (路線不定期)	サービス水準の見直しの一環で、運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	利用者数を1運行当たり2.8人以上に対して、2.8人であった。 ※稼働率44.44%	新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。	
	江津市	鹿賀線 鹿賀団地～川越～桜江総合センター (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	利用者数を1運行当たり2.0人以上に対して、0.3人であった。	集落の人口減少の影響もあり、目標どおりの成果が見られなかったため、新規利用者の拡大等に向けて住民との連携に一層努めていく。	
	江津市	江津川平線 川平～千金～ゆめタウン江津前 (路線定期)	サービス水準の見直しの一環で乗り込み調査を実施したほか、運転手に利用者の状況を確認した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	利用者数を1運行当たり3.9人以上に対して、4.4人であった。	新規利用者の拡大等に向けて住民と連携しながら、目標数の維持に努める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
雲南市地域公共交通協議会	島根県雲南市	吉田ルート (吉田～菅谷)	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1運行当たりの利用者数は4.0人で、目標1.5人以上を達成した。 ・アンケートによる住民満足度は53.0%で、目標値59%に届かなかった。 (効果) 日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。	
		田井ルート (吉田～杉戸)	・自治会や地域自主組織等の住民組織と連携し、周知による利用促進を図り、合わせて利用者ニーズの把握による運行内容の改善や、市民バスとの接続確保のためダイヤ改正に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B (目標) ・1運行当たりの利用者数は4.6人で、目標1.5人以上を達成した。 ・アンケートによる住民満足度は53.0%で、目標値59%に届かなかった。 (効果) 日常生活における移動及び中心市街地への移動手段を確保できた。	・住民組織と連携し、運行内容改善に努め、利用促進を図ることで、市民アンケートによる住民満足度が目標を達成できるよう取り組む。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
飯南町地域公共交通協議会	飯南町	赤名吉田線 （1日4往復）	利用者数の目標を達成するため、ニーズの掘り起こし、ダイヤ改正等を行い利便性の向上を図る。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を3.1人以上としていたが、実績は3.0人であり、目標を達成できなかった。	引き続き、利用者数の増加、利便性を図るため、ニーズの掘り起こし及びダイヤ改正等を検討する。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。	
	備北交通株式会社	赤名線 （1日4往復）	運行事業者と協議を行い、市内観光施設の周遊及び接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 1便あたりの利用者を3.6人以上としていたが、実績は4.1人であり、目標を達成できた。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。		
邑南町地域公共交通会議	備北交通株式会社	作木線①	通学・通院利用を中心に、市民の日常生活に欠かせない路線であることから、運行を維持した。また、乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を5.3人以上としていたが、実績は4.8人であった。	利用者は回復傾向にあり、住民の日常生活に欠かせない路線であることから、現在の運行形態を維持しつつ、利便性向上に向けたダイヤ改正等を検討する。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。	
	備北交通株式会社	作木線②③		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 1便あたりの利用者を3.4人以上としていたが、実績は3.6人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。		
	NPO法人はすみ振興会 羽須美地域区域運行	羽須美地域区域運行	編成実施計画の見直しにより、邑南町の代替として運行を開始した。利用者ニーズを注視しながら運行を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。年間854人以上の利用を目標としていたが、実績は824人であった。通院等の需要増のため利用者数が増加し目標の見直しも実施した。	概ね目標通りの利用状況である。現在、作木線へ乗り継ぎ、三次方面へ行く通院利用の数が多いため。引き続き、利用状況を観察し、利用者ニーズに対応した運行を実施する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
川本町地域公共交通協議会	大和観光株式会社	川本美郷線②	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A 三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A 1 便当たりの利用人数目標4人以上に対し、実績12.6人であった	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続した利用促進策により目標とする利用者数を達成している点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	
	大和観光株式会社	川本美郷線⑥	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A 三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A 1 便当たりの利用人数目標4人以上に対し、実績6.7人であった。	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。		
美郷町地域公共交通協議会	大和観光株式会社	川本美郷線②	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A 三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A 1 便当たりの利用人数目標4人以上に対し、実績12.6人であった	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを用いたバスブック配布、町内移動にかかる運賃助成、免許返納者支援、未利用者への啓発活動など利用促進に向けた取組を実施し目標とする利用者数を達成した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	
	大和観光株式会社	川本美郷線③	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A 三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A 1 便当たりの利用人数目標3人以上に対し、実績7.4人であった。	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。		
	大和観光株式会社	川本美郷線⑥	乗降調査による利用客のヒアリングで課題の把握を行う。	A 三江線代替交通乗降調査に合せ当該路線のヒアリングを実施した。	A 1 便当たりの利用人数目標4人以上に対し、実績6.7人であった。	利用者の大半が中学校・高校の通学生であるため、児童生徒の利用状況を勘案しながらダイヤ検討等を行う。		
	備北交通株式会社	作木線②③	乗客を対象としたアンケート調査を実施し、利用上の課題の把握に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 1 便あたりの利用者を3.4人以上としていたが、実績は3.6人であった。	引き続き、関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用状況を勘案しながら、再編・ダイヤ改善の検討を行う。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
津山市地域公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(2)マルナカ西循環線 (マルナカ院庄店～津山駅～マルナカ院庄店)	<p>R4年10月にグリーンヒルズ津山でバスの乗り方教室及びバス乗車体験を実施した。講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点等を把握することに努めた。</p> <p>R4年12月に津山市公民館長会議において、バスの乗り方教室開催の要請を行った。</p> <p>R5年2月に勝北地域、加茂地域、阿波地域、久米地域、旧津山地域のふれあいサロンリーダ向けにバスの乗り方教室を実施し、バス乗り方教室を要請とアンケートを行い、バスへの要望や問題点等を把握することに努めた。</p>	A	<p>・計画どおり事業は適切に実施された。要望や利用、運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。</p>	B	<p>利用者は目標8,021人(R3実績値の1%増)に対しR5：7,475人(目標対比:93.1%)となり、目標を下回った。</p>	<p>路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入、久米支所線への接続改善などを実施したが、目標には達しなかった。</p> <p>今後は、沿線自治体と連携した利用促進交、通系ICカードの利用者の増加、中学生や高校生向けの啓発活動、あらゆる情報媒体を活用した利用啓発や路線再編の周知をすすめるとともに、「バス乗り方教室」などを積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生以下を対象にした路線バス等の運賃無料及び乗車記念バスカードを配布した点は評価できる。 ICカード決済の導入やGTFSデータの整備に取り組み、利用者利便向上を図った点は評価できる。
		(3)小循環線 (津山駅～志戸部～津山駅)	<p>R5年3月に清泉公民館で乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点等を把握することに努めた。</p> <p>R5年3月～4月「さくらまつり」期間中の小循環線の特別運行実験を行い、5日間で43人が利用した。</p> <p>R5年4月に津山東公民館で乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点等を把握することに努めた。</p>	A	<p>・計画どおり事業は適切に実施された。要望や利用、運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。</p>	A	<p>利用者は目標2,861人(R3実績値の現状維持)に対しR5：4,119人(目標対比:143.9%)となり、目標を達成した。</p>	<p>コロナ禍の影響により、高齢者や観光客の利用が減っていたが、岡山ステーションキャンペーン等の観光需要や日常利用の増加により、コロナ禍前に戻りつつある。</p> <p>今後は、令和3年度から観光観点としての路線バス活用を見いだすため、観光路線に特化した経路変更の実験を行っており、本年も一定の利用が見られているが、観光路線としての側面を検討しつつ、利便性の高い路線形態の変更を検討したい。</p>	<p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
津山市公共交通会議	中鉄北部バス株式会社	(4)加茂支所線 (イオン津山店前～めぐみ荘)	令和5年6月に勝北地域と旧津山地域のふれあいサロンで乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。 令和5年7月に旧津山地域で乗り方教室を実施し、講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点を把握することに努めた R5年7月、8月、観光列車「あめつち」の運行に合わせた小循環線の特別運行実験を行い、4日間で87人が利用した。 R5年9月に加茂地域で乗り方教室及びバス乗車体験を実施、講座後にアンケートを行い、バスへの要望や問題点を把握することに努めた。	A	A	利用者は目標16,125人((4)はR3実績値の1%増、(5)(6)は現状維持)に対しR5：16,374人(目標対比:101.5%)となり、目標を達成した。	<p>コロナ禍の影響により利用者が減少していたが、少しずつではあるが日常利用者が回復してきている。 今後は、ごんごバスの車両更新及び交通系ICカードの導入を進め、より一層の利便性向上やあらゆる情報媒体を活用した利用啓発や周知を進めるとともに、「バス乗り方教室」を積極的に実施し、利用意識の醸成につなげていく。 さらに、次年度以降運行するAIデマンド交通による二次交通の改善を行い利用者の利便性向上を図る。</p>		
		(5)勝北支所線 (イオン津山店前～新野桜橋)		A					・計画どおり事業は適切に実施された。要望や利用、運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。
		(6)(奥津川)勝北支所線 (イオン津山店前～奥津川)		A					・計画どおり事業は適切に実施された。要望や利用、運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。
		(7)津山東循環線 (津山駅～イオン津山店前～津山駅)		A					・計画どおり事業は適切に実施された。要望や利用、運行状況を踏まえ必要に応じた改善を図っている。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
新見市地域公共交通会議	備北バス（株）	市街地循環線 上市横見～石蟹	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな利用者の掘り起こしを行うため、市内全世帯及び新見公立大学の学生に対して時刻表を配布した。また、乗合タクシーの実証運行を実施するにあたり、市街地循環線に結節させることで、利用促進を図った。 ・市街地循環線において、令和6年3月までに交通系IC「ICOCA」が利用できるよう準備を進めている。 ・令和5年3月に「新見市地域公共交通計画」を策定。 	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 新たな利用者の掘り起こしを行うため、乗合タクシーとの接続などを実施し、利用促進を図った結果、利用者数98人/日の目標に対して107.01人/日と目標を達成することができた。	<p>今後も引き続き利用促進事業などの啓発活動を行い、潜在的な利用者の掘り起こしを行う。</p> <p>また、より一層の利用者の確保を行うため、利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しを行うことによって、持続可能な運行を実施する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者開拓のため時刻表の全戸配布を実施した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・キャッシュレス決済について、早期に導入が進み利用者利便が向上することを期待します。 	
真庭市地域公共交通会議	真庭市	<p>■フィーダー系統</p> <p>①蒜山～久世（1日：12便） ②新庄～久世（1日：8便） ③北房～久世（1日：12便） ※令和5年4月一部時刻変更</p> <p>■減価償却費等補助</p> <p>1)対象車両：4台 使用ルート：蒜山・久世 2台 新庄・久世 1台 北房・久世 1台</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の向上を目指し、蒜山久世ルート及び新庄久世ルートについて、JR姫新線との乗り継ぎを考慮し、時刻改正を実施した。 ・市内イベントに合わせ、臨時夜間便である『ナイトまにわくん』を運行した。 ・日にち限定の運賃無料化企画『0yenライド』を実施。岡山市の運賃無料化企画『運賃無料DAY』と日にちを合わせ、高速勝山岡山線からの無料乗り継ぎも可とした。 ・対象外路線である枝線について、中和地域で地域運行を構築中。（令和6年4月運行開始予定） ・令和5年3月に障がい者とその家族向けにバス乗り方教室を実施した。 	A 運行計画のとおり、事業は適切に実施された。	B <p>■フィーダー系統</p> <p>目標「フィーダー系統の年間延べ利用者数：115,000人」 ⇒実績「95,942人」</p> <p>【特記事項】</p> <p>1)利用者人数（前年比）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間利用状況 蒜山・久世ルート：47,260人（99.2%） 新庄・久世ルート：18,232人（97.1%） 北房・久世ルート：30,450人（94.3%） <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較し、若干の減少、目標としては未達成となった。 <p>■減価償却費等補助</p> <p>目標「バリアフリー対応車両（独自基準）：運行車両の85%（長期的には100%）」 ⇒実績「86.3%」</p> <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行車両22台の内、19台がバリアフリー対応車両となっている。長期的には100%を達成できる見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内高校生の登下校対応を基本に、JR姫新線と民間路線バスとの接続及び運転免許証を保有しない市民や高齢者の通院等、日常生活利用にも配慮した効率的で利便性の高い、公共交通を目指す。 ・補助対象外路線である枝線を含めた、全体的な見直しが必要。現在、落合・久世・勝山地区においてAIオンデマンド交通を構築。（令和5年10月実証運行開始）今後は利用者の増加やエリアスポンサー獲得に努める。 また、地域運行も含め利便性の高い公共交通を目指す。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道接続にあわせたダイヤ改正により利用促進をはかった点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・「チョイソコまにわ（AIオンデマンド交通）」「キャッシュレス機器」及び「地域通貨（まにこいん）」の導入による利用者利便の向上を期待します。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
玉野市地域公共交通会議	旭自動車(株)	①玉原・和田・日比エリア ②荘内・八浜エリア	<p>・シーバスは新設した路線が、引き続き好調であった他、シーバス、シータクともにコロナ禍からの回復傾向により、利用者数が増加した。</p> <p>・シータクコールセンターの効率的な運営の在り方を検討するにあたり、調査会社を通じて、業務内容の検証・調査・分析を行った。</p>	A	<p>計画通り事業は適切に実施された。</p>	B	<p>・公共交通（シーバス、シータク）の年間利用者数目標については、115,000人／年に対して令和4年4月～令和5年3月までの実績が116,615人／年であり、コロナ禍から回復傾向となり、目標を達成することができた。</p> <p>・市内の公共施設や病院への移動手段がなく不便を感じている市民の割合については、目標の8.6%以下に対して令和4年度の実績は6.5%であり、目標を達成することができた。</p> <p>・外出する頻度が週1日以下の高齢者（65歳以上）の割合については、目標の11.7%以下に対して令和4年度の実績が13.1%であり、目標達成には至らなかった。一方で、令和元年度から令和4年度にかけて11.5%から13.1%の間で数値を上下させながら推移していることから、一定程度の割合で外出頻度が少ない人がいるものと推測される。</p> <p>・公共交通の収支率については、シータク・シーバスの利用者数が回復傾向となり昨年度よりも収支率が改善し15.8%となったところであるが、路線維持経費や人件費、燃料価格の高騰等の経費増によって、目標の17.7%以上を達成できていない。</p>	<p>・シーバスについては、路線毎や年間の利用状況等を踏まえた分析を行い、便や路線再編等を検討し、より最適な運行形態を目指す。</p> <p>・シータクコールセンターについて、今まで、運用の見直しや人員配置の工夫を実施してきたところであるが、今後は、調査結果を踏まえた効果的な取り組み導入を目指して検証を進める。</p> <p>・シーバスの運賃ついて、利用者負担額と市負担額のバランス、将来経費の推移見込み等に注目して検討を進めるとともに、利便性向上や利用促進を図ることで、収支率の改善を目指す。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・シーバスの定額乗り放題サービスや、シータクの無料券配布を実施し、利用者利便を向上を図った取組を実施した点は評価できる。</p> <p>【期待する取組】</p> <p>・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。</p> <p>・シータクのコールセンタの運営にあたって、調査結果を踏まえた効果的な運用が図られることを期待します。</p>
	双葉タクシー(株)	③山田・東兎エリア							
	下電観光バス(株)	④田井・中央（宇野・築港）・玉エリア							

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
倉敷市地域公共交通会議	(株)日の丸タクシー	真備地区コミュニティタクシー事業 西ルート（区域運行） （真備町妹、尾崎、服部、箭田、市場、有井、川辺、岡田、辻田地区の一部）	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページに、コミュニティタクシーのパンフレットを掲載し、情報発信に努めた。 ・運営委員会を対面方式で開催し、利用者の推移など、当地区の現状や、今後の利用促進が必要であることなどについて、認識を共有した。 ・利用促進及び事業のPRのため、コミュニティタクシーについて、地元説明会を開催した。 	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。	B	利用者目標2,900人に対し2,721人、運行平均乗車人数は目標2.0人/回に対し2.2人/回、運行割合は、目標67.8%に対し70.6%であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の目標値について、昨年度と同様に、真備地区の人口の回復状況等を加味した現実的な数値を設定する必要がある。 ・昨年度に引き続き、地元要望がある場合など、必要に応じてコミュニティタクシーに関する地元説明会を開催する。 ・今後も地元運営委員会と連携して継続的な広報活動、利用促進活動に取り組んでいく。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元要望を受け、平成30年の豪雨災害により被災したスーパーに停留所の設置を検討した点は評価できる。（R5.12に設置） <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		B				利用者目標1,100人に対し888人、運行平均乗車人数は目標1.4人/回に対し1.5人/回、運行割合は、目標40.5%に対し33.1%であった。			
		B				南ルートAについては、利用者目標3,300人に対し2,893人、運行平均乗車人数は目標2.5人/回に対し2.3人/回、運行割合は、目標69.2%に対し70.3%であった。			
		B				南ルートBについては、利用者目標180人に対し165人、運行平均乗車人数は目標1.1人/回に対し1.2人/回と、運行割合は、目標8.9%に対し7.6%であった。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
赤磐市地域公共交通会議	(有)竹内タクシー	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 是里線、中山線、滝山線、河原屋線)	<p>デマンド型市民バスの利用者の実人数拡大に努めるという課題に対して、利用促進に向けた啓発を継続して実施した。</p> <p>具体的には、2次的に啓発されていくことを意図して、目的地となる店舗や診療所へ時刻表を持参して制度説明を行った。また、現地で利用者の利用頻度・利便性について聞き取りを行った。</p>	A 運行計画に従い、適切に実施された。	A 令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類となったことから、利用者の外出機会も増加し、1,238人の利用があり、目標値の1,210人を上回った。 (前年度は目標値1,210人に対し利用者が930人と達成率76.9%であった。) 路線ごとの分析結果は、西勢実・中勢実線と暮田・平山線は周匝まで路線を延伸した結果、暮田・平山線は7割以上が周匝周辺での乗降があった。 また、城南地域を運行している滝山線を除く路線では、定期的な利用がそれぞれ2名程度増えたことにより、延べ利用者数が大幅に増加した。 高齢化が進み人口が減少している中、免許返納者も増えてきているが、一定の利用者を保持している。 地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させるために地域に必要な事業であると判断される。	令和4年4月1日から佐伯北診療所から周匝まで路線を延長したことに伴い、従来からの利用者に加え、仁美地域から周匝までの利用者が増え、周匝への移動のニーズは高まってきている。また、令和6年1月からは、赤坂地域を新たな形でデマンド型市民バスとして実証運行を行う予定としており、吉井地域においても見直しを行う。 引き続き、地域住民のニーズ、運行事業者の意見の把握を行い、持続可能な交通手段確保に努めることで、地域を活性化することに寄与していきたい。 今後も地元区長等と連携しながら利用促進に取り組んでいく。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停サポーター制度（地域と協働して公共交通を維持していく取組の一つ）を活用し、地域に根ざした交通サービスを図ろうとしている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	
	(有)荒嶋建設	赤磐市吉井地域でのデマンド型市民バスの運行 (系統名 西勢実・中勢実線、暮田・平山線)	<p>令和2年4月1日から、75歳以上の方、おかやま愛カード所持者の運賃を半額にし、利用促進を図っている。</p> <p>令和3年10月からは、定期券（1, 3, 6か月）の導入を行った。</p> <p>令和5年2月には、バス停サポーター制度を利用し、吉井特産館へベンチを設置した。</p>					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
鏡野町公共交通会議	(株) 中鉄北部バス	上齋原～マルナカ線	<p>高校生の通学支援のため、同じようなルートを通る幹線バスの定期券購入者が利用する際には半額の100円で利用できるよう依頼。</p> <p>また、例年、中学校卒業を控えた3年生に定期バス路線をPRするなど、利用を呼び掛けている。</p> <p>令和4年4月より、高校生等通学助成事業において、定期券の購入費を助成している。</p>	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B <p>公共交通に関する満足度 目標47.0% ⇒ 実績 75% (目標対比 159.5%) ※対象：上齋原・奥津・富地域 目標は達成できている。</p> <p>利用者の増加 目標 2.1人 ⇒ 実績 2.0人/回 (目標対比 95.2%) 目標は達成できなかった。</p> <p>(直近の乗降調査によると、苫田ダム以北のバス停からの乗客がメインとなるため、対象地域を限定して算定した)</p>	<p>町民の外出支援として定着しつつあるが、さらに新規利用者の発掘を検討する。高齢者の外出支援等、路線の見直しを検討していく。</p> <p>現行の時刻表が定着しているなか、上齋原～マルナカ線については利用者の増加がみられる。令和3年3月に結節点であるプラント5にバス待合所を整備し、利便性向上を図り、利用者からも好評である。さらなる利便性向上を検討する。</p> <p>利用人数については、徐々に増加しており、今年度はコロナ禍以前の水準に戻っている。</p> <p>町北部地域では人口減少が著しく進んでいるため大幅な利用者の増加は望めないが、運転免許証の返納により今後、運転免許を保有しない高齢者が増えてくると見込まれるため、鏡野町地域公共交通計画を適宜実行に移し、利便性向上を図る。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進のために広報誌、テレビを通じて呼びかけを行うなどの利用促進策に向けた取組を講じた点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。 	
	(株) 中鉄北部バス	津山ごんごバス西循環線	<p>令和元年10月から本格運行となり、それに合わせて町内を運行する路線バスを西循環線に接続するよう時刻改正を行ったことから、鏡野町-津山市間の移動に利用する人が定着、本格運行後は大幅に増加した。</p>	A 計画通り、事業は適切に実施された。	A <p>公共交通に関する満足度 目標 47.0%⇒ 実績 61.8% (目標対比 131.4%) ※対象：鏡野全地域 目標は達成できた。</p> <p>利用者数 目標 7.0人 ⇒ 実績 7.21人/回 (目標対比103.0%) 目標は達成できた。</p>	<p>利用者人数は、コロナ禍以前の水準近くまで回復している。令和5年4月からの路線の再編、交通系ICカード決済システムの導入により、今後の利用促進に努める。</p>		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
鏡野町公共交通会議	(株) 中鉄北部バス	津山ごんごバスマルナカ西循環線	令和5年4月から鏡野町内へ延伸する便を4便へ増便。鏡野町～津山市間の移動をよりスムーズに行えるようにダイヤ改正を行った。	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B 公共交通に関する満足度 目標 47.0% ⇒ 実績 61.8% (目標対比 131.4%) ※対象：鏡野全地域 目標は達成できた。 利用者数 目標 5.5人 ⇒ 実績 4.96人/回 (目標対比90.1%) 目標は達成できなかった。	令和5年4月より鏡野町内への延伸運行を増便した。 利用人数については、目標を達成できなかったが、令和5年4月より路線の再編や、交通系ICカード決済システムの導入により、今後も利用状況を把握しながら、利用促進に努める。		
	(有) 中田石油店	富～箱線乗合タクシー	運行回数、利用者数については以下の通り推移しており、コロナ禍における外出自粛傾向に併せて、高齢者の団体利用が減少したものである。 帰りの便が遅いことで行先で時間を持て余すとの意見があり、令和4年10月より、復路を1便増便した。	A 計画通り、事業は適切に実施された。	B 公共交通に関する満足度 目標 47.0%⇒ 実績 100% (目標対比 212.7%) ※対象：富地域 目標は達成できた。 利用者数 目標 2.5人 ⇒ 実績 1.74人/回 (目標対比 69.6%) 目標は達成できなかった。	利用される地区が限定されており、利用者の絶対数が少ない中で特定のヘビーユーザーの有無により大きく左右される状況が続いている。 令和4年10月より、復路を1便増便し、より気軽に買い物等に出かけられるようになっていく。今後は、住民への周知を行い、特定の利用者のみに限らず、住民以外の方の利用へもつなげていく。		
吉備中央町地域公共交通会議	中鉄バス株式会社	・総社南校北～宮前線 ・総社駅～妙仙寺線	・本路線を当町地域住民に周知することと併せて、運行路線の一部となる総社市地域住民へも周知するために総社市と連携し、当該区域の町内会を通じて広報を展開した。今後も、総社市との連携を強化し、利用者の増加を目指す。	A 利用者数を注視しながら必要に応じて事業者への聞き取り、町広報紙への当該路線バスの利用促進記事の掲載、総社市区域への広報を行っており、計画どおり適切に実施された。	A 目標：令和3年度実績を維持する。4,717人(393人/月) 結果：5,786人(482人/月) 令和5年度は本路線を利用する総社南高校への進学者が減少したことにより学生の利用が多かった便は減少し、コロナ等が落ち着いたことで、学生以外の利用で目標値を上回った。	主な利用者が総社南高校への通学者であり、進学先により利用者数の増減が著しい路線となっている。引き続き、総社市在住者や観光客など通学以外の新たな利用者の掘り起こしを実施していく。	【評価できる点】 ・関係市と連携し周知をすることで、主な利用者となる学生以外の新規利用者を獲得できた点は評価できる。 【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
笠岡市地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(1)デマンド大島中線 大島中地区～笠岡駅～笠岡市民病院を結ぶデマンド型乗合タクシー	・福山・笠岡地域公共交通計画をR5年度中に策定を予定。 ・車内を装飾したバスの運行やダイヤ改定により利用利便向上を図る。 ・住民アンケートにより把握したバスの需要を分析し、利便向上を図る。 ・利便向上のための、電子決済の導入を検討中。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 1.0人/0.9人	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。
		(2)デマンド尾坂線 尾坂地区～笠岡駅～笠岡市民病院を結ぶデマンド型乗合タクシー		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 0.6人/0.6人	
		(3)美の浜線 美の浜地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 0.9人/0.9人	
		(4)大島線 大島地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	計画通り事業は適切に実施された。	B	平均乗車密度 1.9人/1.7人	

目標は達成できなかった。さらなる利用促進，マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い，指標の改善を図ってまいりたい。

尾坂地区の人口減少及び高齢化の加速で，利用者が減っているが，目標は達成できた。尾坂地区を含めた沿線の市民団体と協働で，利用促進，マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い，また，ルート変更，ダイヤ改正等の検討を行い指標の改善を図ってまいりたい。

目標は達成できた。笠岡市交通交流センターの利用啓発を含めて，地域住民の利用促進及びマイバス意識の醸成に向けた啓発を行い，利用定着を図ってまいりたい。また，著しく利用の低い時間帯のダイヤについて，改廃等の検討する。

前回の実績から指標は改善傾向にあるが，目標は達成できなかった。さらなる利便性向上及び，利用促進に向けた啓発を行い，指標の改善を図ってまいりたい。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考			
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果				
笠岡市地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(5)神島寺間線 神島（寺間・外浦地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 1.3人/1.3人	目標は達成できた。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(6)(7)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。				
		(6)神島見崎線 神島（見崎・寺間・外浦）地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス					A		C	平均乗車密度 2.1人/2.0人	目標は達成できなかった。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、(5)(7)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。
		(7)神島外浦線 神島（外浦）地区～笠岡市民会館～笠岡駅を結ぶ路線バス					A		A	平均乗車密度 0.5人/1.3人	目標は達成できた。今後、離島航路との接続を考慮した、ダイヤの調整等を行い、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の維持を図ってまいりたい。また、(5)(6)の系統と同路線のため併せて利用動向を注視したい。
		(8)城見台線 城見台団地～総合スポーツ公園～笠岡市民病院～笠岡駅を結ぶ路線バス					A		A	平均乗車密度 1.0人/1.6人	目標は達成できた。利用状況調査のデータを活かし、ダイヤ改正による利便性向上及び、利用促進、マイバス意識の醸成に向けた啓発を行い、指標の改善を図ってまいりたい。また、著しく利用の低い時間帯のダイヤについて、改廃を検討する。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
笠岡市地域公共交通活性化協議会	株式会社井笠バスカンパニー	(9)今井循環線（※東西廻の平均値） 今井地区～富岡地区～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	平均乗車密度 0.7人/0.6人		
		(10)広東線 広東地区～金浦地区～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 0.6人/0.9人		
		(11)大井ハイランド・尾坂線 尾坂地区～大井ハイランド団地～笠岡駅を結ぶ路線バス		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	平均乗車密度 1.1人/1.1人		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
久米南町地域公共交通会議	(株) エスアールティー	町内全域	利用数増加のため、デマンド交通による久米南町社会福祉協議会の行うデイサービスの送迎を開始した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 認知度の向上、利用の定着により、利用者数は目標17,100人/年に対し、18,891人/年、乗り合い率は目標値32%に対し、39%と目標を上回った。	さらなる運行効率化、利用者数増のため、引き続き利用状況の分析をしていく。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の実施する「デジタル相談室」を活用した周知を実施した点は評価できる。 ・利用実績、乗合率ともに向上しており効率的な運行体制が構築されている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	
井原市公共交通会議	井原市公共交通会議	(1) 井原市予約型乗合タクシー（芳井地区） (2) 井原市予約型乗合タクシー（芳井地区） (3) 井原市予約型乗合タクシー（美星地区） (4) 井原市予約型乗合タクシー（美星地区）	/	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ①バスと予約型乗合タクシーの年間利用者数（目標値）305千人（実績値）284千人 ②予約型乗合タクシーの年間利用者数（目標値）4,600人（実績値）3,190人 ③予約型乗合タクシーの1便あたりの平均利用者数（目標値）1.3人/便以上（実績値）1.2人/便	利用者数の目標値について、実績や直近の推移から設定する必要がある。 利用状況について、継続して集計・検証を行い、市全体の公共交通再編に向けた検討会を行う。 引き続き利用方法等の周知を図り、利用促進に努める。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通に特化した「公共交通かわら版」による利用促進を図った点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入したことに満足することなく、定期的に利用状況を分析し、利便性が向上する取組の実施を期待する。 	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
美祢市地域公共交通協議会	美祢構内タクシー（株）	山中・堀越地区	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	高齢者の利用が想定より下回ったこと等により、日当り輸送人員の目標12人/日に対し、8人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	【評価できる点】 ・利用周知のみならず、その場を活用した利用登録会開催の取組を実施した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
	美祢第一交通（有）	美東地域北部	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	高齢者の利用が想定より下回ったこと等により、日当たり輸送人員の目標8人/日に対し、6人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	
	(有) 秋芳タクシー	秋芳地域南部	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	高齢者の利用が想定より下回ったこと等により、日当たり輸送人員の目標5人/日に対し、4人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	
	美祢構内タクシー（株）	豊田前・西分	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	高齢者の利用が想定を上回ったこと等により、日当たり輸送人員の目標4人/日に対し、6人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	
	美祢第一交通（有）	美東地域南部	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	高齢者の利用が想定通りであったことから、日当たり輸送人員の目標4人/日に対し、4人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
美祢市地域公共交通協議会	(有) 秋芳タクシー	秋芳地域北部	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	高齢者の利用が想定より下回ったこと等により、日当たり輸送人員の目標11人/日に対し、10人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	
	美祢構内タクシー（株）	西厚保・川東地区	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	高齢者の利用が想定通りであったことから、日当たり輸送人員の目標7人/日に対し、7人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	
	美祢構内タクシー（株）	田代・奥分地区	民生委員へのアンケート結果を反映させた地域公共交通計画を策定し、住民説明会に参加した利用者や地域の意見を踏まえて運行ダイヤの見直しや運行区域の拡大等、再編に向けた取り組みを行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	高齢者の利用が想定を上回ったこと等により、日当たり輸送人員の目標5人/日に対し、8人/日であった。	ジオタクの乗り方動画等を活用し、利用方法を広く市民に周知するとともに、高齢者を対象としたモビリティマネジメントを実施する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
岩国市地域公共交通活性化再生法協議会	第一交通（株）	叶木線 (六呂師口～岩国駅)	岩国市地域公共交通活性化再生法協議会において作成している岩国市公共交通マップ&時刻表を活用し周知を図った。	A	A	(目標達成状況) JR岩国駅への接続を行うことにより利便性の向上に努めた。 また、利用者への周知については例年の周知方法を継続して実施した。 全系統における1運行当たりの利用者数は5.23人(対前年比+0.02人)となり、目標の5.12人を達成できた。 各系統の個別の1運行当たりの利用者数としては、叶木線が6.70人(対前年比+0.2人)、二鹿線が7.19人(対前年比-0.28人)、持ヶ峠線が1.85人(対前年比+0.22人)となり、持ヶ峠線の1路線が目標を達成できなかった。 新型コロナウイルス感染症の流行も利用者の減少の一因と考えられる。 (効果達成状況) また、各路線においては、地域の公共交通空白地の解消と、高齢者等の移動手段の確保につながった。	今後は利用者へのアンケート調査などを行い、利用者のニーズに適したダイヤの見直しを検討するとともに啓蒙活動等の利用促進を行う。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・地域住民の意見を反映できる取組みを期待します。
		A						
		C						
		二鹿線 (北河内駅～岩国駅)						
		持ヶ峠線 (上迫～岩国駅)						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
下関市地域公共交通協議会	下関市（豊田） 壱路子線	豊田総合支所 ～ 上壱路子	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関等への時刻表掲示や制度周知のチラシを作成し、運行区域の自治会へ回覧を実施。また、自治会アプリへ時刻表等の掲載し、利用促進を図った。 ・定期的な車両内部の消毒・換気を行い、安心して利用できる環境作りに務めた。 ・委託事業者よりヒアリングを行い、利用状況等の確認を実施した。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	(4路線) 目標利用者数 2,424人/年 実績利用者数 2,484人/年 目標達成率 106.3% 新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛等が続き、利用率が低迷していたが、徐々に利用者が増加し、目標は達成された。 生活バス全路線1乗車ワンコイン(100円)化を継続。 ・安心して利用できる環境の整備や、自治会へのチラシ配布、イベント時の意識啓発活動を行い、更なる利用促進を図る。 ・地域のニーズを踏まえた運行ダイヤや便数、経路、運行形態等、生活バス路線のさらなる具体的な見直しに取り組む。 ・下関市（豊田）今出線及び下関市（菊川）内日・田部循環線については、補助対象外となった系統ですが、計画の実施状況を評価するため記載している。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。	
	下関市（豊田） 一の俣線	豊田総合支所 ～ 佐野		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市（豊田） 今出線	豊田総合支所 ～ 地吉		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市（豊田） 一の瀬線	豊田総合支所 ～ 中の瀬		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市（菊川） 椋ノ木・保木線	バスターミナル ～ 椋ノ木		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
	下関市（菊川） 内日・田部循環線	バスターミナル ～ 内日下 ～ バスターミナル		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
宇部市公共交通協議会	宇部市交通局	二俣瀬線	投票のための移動を支援するとともに、当該路線を利用するきっかけ作りのため、期日前投票を目的とした利用に限り、往復の運賃を無料とする等、利用促進に取り組んだ。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 目標は収支率3.5%、年間利用者数240人、稼働率30.0%のいずれかの達成であったが、実績は収支率2.3%、年間利用者数219人、稼働率16.0%でいずれの目標も達成できなかった。 (R4収支率3.4%、年間利用者数261人、稼働率16.2%)	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。	【評価できる点】 ・期日前投票を目的とした利用に限り、往復の運賃を無料とする取組を実施した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。	
	船木鉄道(株)	吉部・万倉線	投票のための移動を支援するとともに、当該路線を利用するきっかけ作りのため、期日前投票を目的とした利用に限り、往復の運賃を無料とする等、利用促進に取り組んだ。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 目標は収支率3.5%、年間利用者数770人、稼働率47.5%のいずれかの達成であったが、実績は収支率3.4%、年間利用者数1,164人、稼働率51.7%で、年間利用者数、稼働率の目標を達成した。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。		
	宇部山電タクシー(株)	西宇部線	令和5年10月からのルート見直しとダイヤ変更、停留所新設に取り組んだ。停留所新設に際して、アンケートを実施し意向把握を行った。また、利用促進やダイヤ変更等の周知のため、チラシを作成し住民に配布し、ポスターを地域内の医療機関等に掲示したほか、クリスマスキャンペーンを継続して実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 目標は収支率18.0%、年間利用者数1,240人のいずれかの達成であったが、実績は収支率17.9%、年間利用者数1,148人で、いずれの目標も達成できなかった。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。		
	宇部山電タクシー(株)	厚南線	運行内容を周知し、利用促進を図るため、ルートやダイヤなどを掲載したチラシを新たに作成し、ルート上の全世帯に配布した。 また、市民センターの利用者に、コミタクの利用を呼び掛け、口コミでの利用促進を図る取り組みを実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 目標は収支率18.8%、年間利用者数2,510人のいずれかの達成であったが、実績は、収支率16.5%、年間利用者数2,390人で、いずれの目標も達成できなかった。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
宇部市公共交通協議会	宇部第一交通(株)	原線	地域住民の意向を反映し、利便性を向上させるため、令和5年10月からのジャンボタクシー導入に取り組んだ。また、チラシのルート上の地域への回覧やウェブサイトへの掲載を行ったほか、民生委員会議の場での利用を呼び掛け等、口コミでの利用促進を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	目標は収支率25.1%、年間利用者数1,290人のいずれかの達成であったが、実績は収支率31.6%、年間利用者数1,781人で、いずれの目標も達成できた。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進を図る。	
	宇部市交通局	東部市内循環線（めぐりーな）	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	目標は収支率36.6%、年間利用者数33,600人のいずれかの達成であったが、実績は収支率53.0%、年間利用者数44,688人で、いずれの目標も達成できた。	運行内容が定着し、利用者が増加しているため、周知活動を継続する。	
	宇部市交通局	市街地循環線	「周知活動を継続する。」とした点について、市広報紙、時刻表、ホームページなどで情報提供を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	目標は収支率30.0%、年間利用者数13,900人のいずれかの達成であったが、実績は収支率24.0%、年間利用者数15,684人で、年間利用者数の目標を達成できた。	収支率が30%を下回っているが、前年度より改善されていることから、令和5年4月に実施した運行の見直し効果が発揮していると思われる。今後も、利用者増加のため、周知活動を継続する。	
	宇部第一交通(株)	桃山線	地域住民の意向を反映し、利便性向上や利用促進を図るために、令和4年10月からルートの一部を変更した。また、運行対象地域内の祭りでの運行車両展示を継続して行うとともに、手のひらサイズの時刻表を参加者に配布し周知を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	目標は収支率14.0%、年間利用者数2,270人のいずれかの達成であったが、実績は収支率11.7%、年間利用者数2,350人で、年間利用者数の目標を達成できた。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
宇部市公共交通協議会	宇部第一交通(株)	東岐波線	運行内容を周知するため、運行地域の広報誌に情報を掲載し全戸配布した。 また、コースや時刻表をウェブサイト上で確認ができるように広報誌に二次元コードを表示したほか、民生委員や福祉委員を通して、交通手段を持っていない高齢者に対して、口頭での周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 目標は収支率24.8%、年間利用者数1,670人のいずれかの達成であったが、実績は、収支率17.8%、年間利用者数1,064人で、いずれの目標も達成できなかった。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。		
	宇部山電タクシー(株)	藤山線	対象地域内のスーパーの啓発掲示板を刷新したほか、ふれあいセンターにチラシを設置した。 また、ふれあいセンターの利用者にコミタクの利用を呼び掛けたほか、民生・児童委員協議会の会議でチラシを配布し、特に停留所近辺の担当民生委員には、独居の高齢者を中心に配布を依頼する等の周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 目標は収支率20.0%、年間利用者数480人のいずれかの達成であったが、実績は収支率16.0%、年間利用者数384人で、いずれの目標も達成できなかった。	利用実態と利用者ニーズの把握に努めながら、周知啓発による利用促進や運行内容の見直しを検討する。		
阿武町地域公共交通会議	防長交通(株)	道の駅阿武町（齋藤医院前）～宇生賀	利用者のニーズ把握を行い、通学、通勤、通院などに利用しやすいダイヤや路線を検討していくため、町と事業者共同でニーズを把握し検討を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標である、1月あたりの利用者数150人以上に対し、1月平均118人の利用であった。	通勤、通学、通院などの朝夕の利用者ニーズを把握し、他交通機関と連携を密にし、事業PRなど引き続き実施していく。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。 	
	防長交通(株)	道の駅阿武町（齋藤医院前）～福賀小前	令和3年10月から福賀地区で、令和5年4月から奈古、宇田郷地区で、住民自らが行う住民共助の交通支援体制を構築し、全町で地区間バスへの円滑な接続を図っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標である、1月あたりの利用者数150人以上に対し、1月平均143人の利用であった。	1便あたりの利用人数が2人未満のため、補助対象外となった。今後も住民自らが行う住民共助の交通支援体制を維持し、全町で地区間バスへの円滑な接続を図る。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
長門市公共交通協議会	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	俵山公民館～俵山地区～俵山公民館・長門市駅	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直し（運行回数の増加）を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内への周知が浸透しており、年間利用者数は目標2,500人に対し、3,261人と更に利用者増となった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報誌、地元CATV、利用方法の動画公開等、継続的な公共交通働きかけの取組を実施している点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。
	特定非営利活動法人 むかつく	久津・上小田～向津具地区～久津・上小田	運行事業者による運行区域内住民への周知。利用者のニーズに沿った運行体系の見直し（ダイヤの見直し）を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	運行体系を見直し、地域内に周知をしたが、年間利用者数は目標1,800人に対し、1,790人であった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	
	古市タクシー有限公司	人丸駅～日置地区～人丸駅	利用者のニーズに沿った運行体系の見直し。営業区域の拡大と運行回数の増加を実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内への周知が浸透しており、年間利用者数は目標3,600人に対し、4,135人と更に利用者増となった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	
	新日本観光交通株式会社	渋木・真木～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系の見直し。営業区域を拡大し、デマンド交通を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	運行体系を見直し、地域内に周知をしたが、年間利用者数は目標1,200人に対し、1,082人であった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていきたい。	
		三隅～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系の見直し。営業区域を拡大し、デマンド交通を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内への周知が浸透しており、年間利用者数は目標1,400人に対し、1,608人と更に利用者増となった。	地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行っていききたい。	
人丸タクシー株式会社	人丸駅～油谷後畑～人丸駅	利用者のニーズに沿った運行体系の見直し。営業区域を拡大し、デマンド交通を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B	運行体系を見直し、地域内に周知をしたが、年間利用者数は目標1,000人に対し、854人であった。	地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行っていききたい。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
長門市公共交通協議会	富士第一交通有限会社	深川湯本～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、新たにデマンド交通を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	運行体系を見直し、地域内に周知をしたが、年間利用者数は目標500人に対し、818人であった。	地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行っていききたい。	
		黄波戸・西深川～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、新たにデマンド交通を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	新規デマンド運行を開始した地区であるため、地域内に周知をしたが、年間利用者数は目標1,000人に対し、626人であった。	地域への周知徹底に努めると共に、利用実態を分析し、利用者が増加するよう運行内容の検討を行っていききたい。	
	長門山電タクシー有限会社	青海島～長門市中心市街地	利用者のニーズに沿った運行体系を検討した結果、新たにデマンド交通を導入した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	地域内への周知が浸透しており、年間利用者数は目標1,500人に対し、2,375人と更に利用者増となった。	利用者の利用実態、地元住民の意見内容等を検討した上で、利用者のニーズの変化に対応できるよう運行内容の検討を引き続き行っていききたい。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
柳井市地域公共交通会議	柳井三和交通(株)	I系統 日積地区	・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標150人/月に対し、231人/月だった。	利用者数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用に関するアンケートを行い運行内容の検討を行った点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
		II系統 大島地区	・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標150人/月に対し、165人/月だった。	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	
		III系統 伊陸地区	・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標120人/月に対し、159人/月だった。	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	
	柳井第一交通(株)	IV系統 阿月地区	・柳井市のホームページや窓口等での案内により、地域住民に事業の周知を図った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	月平均利用者数は目標75人/月に対し、154人/月だった。	利用者数、運行数が少ないダイヤについては、ニーズの把握に努め目標達成を目指す。	
山陽小野田市地域公共交通会議	小野田第一交通（株）	松ヶ瀬・平沼田・不動寺原線 湯の峠・陽光台・山川線	<p>・このところ厳しい利用状況が続いているため、コロナ以外の原因も分析するとともに、住民の意識啓発を図る観点から、利用登録者を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、現在の運用に対する満足度は高かったことから、広報等を充実させ、住民の認知度を高め、一層の利用促進につなげることとしている。また自治会からの要望を踏まえ、新たに東下津地区を追加した。</p> <p>・令和6年度事業から、これまで2系統でまとめて設定していた目標値を改め、両系統個別に設定することとした。</p>	A	事業は、計画どおり適切に実施された。	B	<p>輸送人員は目標20人/日に対し16.9人/日であった。コロナ禍による外出自粛の影響が長期化し、利用頻度の高い高齢者が死亡や施設入所したこと等により、目標値を下回ったが、事業者と連携した周知により、昨年度（17.1人/日）とほぼ横ばいの結果となった。</p>	<p>高齢化の進展や免許返納者の累増、JR美祢線の被災による運休を考慮すると、当該地域における公共交通に対するニーズは根強いが、デマンド型交通の認知度の低さから利用向上に至っていないものと推測される、そこで、これまでに引き続き、自治会を活用したきめ細かい広報や事業者と連携したPR、アンケート調査による利便性の向上等を通じ、利用者の拡大を図る。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用登録者に対するアンケート調査により運用サービスの改善を検討している点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考	
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果		
田布施町地域公共交通協議会	田布施町社会福祉協議会	城南・西・東田布施系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用や各公民館等に事業の説明を行った。また、必要に応じて聞き取り調査を実施した。	A	事業は、計画どおり適切に実施された。	A	全系統の稼働日数の目標値は月15日以上で、実績は月平均16日。 利用者数の目標値は月55人以上で、実績は月平均60人。 JR田布施駅への乗継ぎに係る利用者数は月平均6人。	民生委員等福祉関係者を介した対象者への情報提供や、運転免許証自主返納者への支援により、登録者数は徐々に増加している。 今後について、利用率が向上するよう、交通事業者と連携して取り組む。引き続き社協だより等での広報、関係者への情報提供、ポスター・チラシ・回覧等での周知に取り組む。	【評価できる点】 ・継続的に利用促進策を講じている点は評価できる。 【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 ・これまで講じてきた利用促進策の効果を検証し、より一層の利用者獲得に向けた取組みを期待する。
		麻郷・麻里府系統	評価内容を踏まえ、福祉関係会議での周知、広報の活用や各公民館等に事業の説明を行った。また、必要に応じて聞き取り調査を実施した。	A	事業は、計画どおり適切に実施された。				
周南市地域公共交通会議	周南市	大道理・須々万線 (河内～大道理・夢求の里交流館～高原病院)	委託事業者（地元協議会）と意見交換を行い、利用者や運転士の意見を収集する等、状況把握を行った。 令和4年8月より追加した火曜日運行については、1便あたり2.5人の利用があり、利便性の向上に繋がった。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	▶目標達成状況 設定目標1か月あたりの利用者数102人に対し、実績は111人であった。 ▶効果達成状況 目標数を上回り、利用者数は年々増加している。	引き続き関係者と連携して地域のニーズ等の把握に努め、運行ダイヤや乗降場所など住民が利用しやすい運行内容となるよう実施する。	【評価できる点】 ・公共交通マップや市のHPを更新し周知を図った点は評価できる。 【期待する取組】 ・成果を上げることができた要因についても分析し、関係者と連携協働を図り、より一層利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。
光市地域公共交通協議会	西日本バスネットサービス株式会社	光駅～光市役所前～光駅	・毎月の利用者数モニタリング ・光市公共交通マップの改訂及び時刻表とともに沿線施設への設置による利用啓発 ・光市高齢者バス・タクシー運賃助成パイロット事業の実施による利用促進	A	1月25日に積雪により2便運休が発生したが、事業は適切に実施された。	B	【目標達成状況】 1便あたりの利用者10.4人の目標設定に対し、実績7.9人となり目標値を達成できなかった。 【効果達成状況】 光市公共交通マップの市内公共施設への設置や光市高齢者バス・タクシー運賃助成パイロット事業の実施により利用促進を図ったところ、目標は達成できなかったが、前年比では698人（0.3人/便）利用者が増加した。	公共交通マップの改訂や本路線から他の路線バスへの乗継案内を作成し、公共施設や駅などへ設置。また高齢者バス・タクシー運賃助成パイロット事業（第2期）を令和5年10月から半年間実施し、目標達成を目指す。	【評価できる点】 ・運転免許を持っていない高齢者への支援策として高齢者バス・タクシー運賃助成パイロット事業の導入した点は評価できる。 【期待する取組】 ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）	評価結果	
下松市地域公共交通活性化協議会	下松市	米川・花岡線	住民に利用してもらえる公共交通となるよう、また新規利用者を増やすために、①くだまつ商工祭りに展示車を展示させ、PRを行った。②無料乗車週間のイベントを実施し、新規利用者の開拓を行った。	A 計画事業は適切に実施された。	C 令和5年度の目標値は令和4年度利用者数実績値から新型コロナウイルス感染症による利用者数の減少の影響を排除した数値を推計して設定していたが、新型コロナウイルス感染症により、定期的な利用者の外出頻度の低下が回復しなかったことや、米泉号の利用を控えていた利用者の利用が戻らなかったこと等から、確保維持計画に記載した定量的目標には達しなかった。 （【参考】目標設定：1か月あたり利用者数96人⇔実績値：国庫補助対象便が年間284便あり、696人が利用（1か月あたり利用者数58人））	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のニーズや意見等を反映し、定時定路線と区域運行を併用した運行形態として実施していることから、どちらの運行形態の地区においても地域への認知度を向上させることにより、更なる利用者の掘り起こしを行う。 ・地域の公民館行事などと連携し、利用促進に繋がる施策を連携して行う。 ・これまで行ったアンケート等の利用者の意見を踏まえたダイヤ設計の検討を行う。 ・これまで行ったアンケート内容を踏まえ、予約エリアの曜日指定を廃止し、全エリアで全曜日で予約を可能とする。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催時に米泉号を出店したことや夏期に運賃無料イベントを実施し、利用促進に向けた取組を実施した点は評価できる。 <p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。 	